

》商工会議所活用レシピ

繊維なら「なんでもお任せ」
地場産業の底力をお見せします



株式会社田野商店
代表取締役社長
田野 雅己さん

今、弊社で主に扱っているのが、よさこい祭りの衣装づくり。全国各地のお祭り、各チーム趣向を凝らした装いを目にする機会も多いと思います。お客さんによつては、イメージだけでデザインからおこなすことも。肩に穴を開けたいとか、早変わりしたいとか、千差万別です。

襟合わせなど見ても分かる通り、原型は和服。しかし和装の常識では、穴を開ける、袖を切つてひらひらさせるなんてとんでもないこと。弊社は、もともと婦人・子ども服のフォーマルウェアやイベント・舞台衣装などの技術を求められる商品を取り扱っていたので、和洋折衷のデザインはお手の物。遊び心のあ

る服をつくるのは楽しいですね。お客さんは、つくれるところ

をあちこち探していたそうです。地元の繊維業界の仲間から相談されて、ふたつ返事で始めたのが今では主力商品です。「足利」は、繊維に関しては「なんでもできる」と言つても言い過ぎじゃない。うちはデザインや縫製が得意だけど、染め、刺繍などは仲間が頼んでいます。

こうした仲間との繋がりは、祭りやPTAといった、商売とは関係ない地域活動から始まることも多いです。相手の活躍を知ると刺激にもなり、自己変革しないと！とエネルギーがみなぎってきます。もちろん、(すぐにはなくても)儲けにつながるヒントが見えてくることも。

商工会議所は地域おこしのキーパーソンだし、情報の宝庫。商工会議所が主催するイベント

などで、面白い出会いがあったり、直接、商工会議所に引き合わせてもらったり。自身の活動だけでは到底なしえないネットワークが広がっています。

今、商工会議所主導で足利幕府プロジェクトを推進中。世界に通用する足利発の商品を、地場産業の「繊維」「アルミ」で開発しよう、まずは当時芽吹いた文化の一つ「茶道」を取り上げ、野点用茶道具を製作しました。現代はアルミ産業の方が勢いづいていますが、「繊維」も負けてはいられません。昭和初期に一時代を築いた「足利銘仙」を復活させ、イスの座面に使用するなど工夫を凝らしています。アルミとの仕事なんて、商工会議所がなければ出会えなかつたこと。今後も楽しみです。

ご相談は最寄りの商工会議所までお気軽にどうぞ

担当者からひと言



足利商工会議所(栃木県)
中小企業相談所
経営支援一課長
斎藤 正行

3年にわたるJAPANブランド足利幕府プロジェクトの一つの成果として先月、野点用茶道具を発表。当時の文化を、地場産業の「繊維」「アルミ」で表現した素晴らしい製品群ができました。地元企業の連携の場づくりも商工会議所の大事な役目です。

斜陽といわれる繊維産業を引っ張る田野さんは、地域を育てる、なくてはならない方。足利銘仙の図柄はもちろん、織り、染めの技術など業界を挙げて研究して下さり「繊維」の力強さや可能性を示してくださいました。

世に出た製品は、当地の技術を結集したいわば商品見本。ぜひお手に取っていただきたいですね。